

白山の火山活動解説資料（令和元年5月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

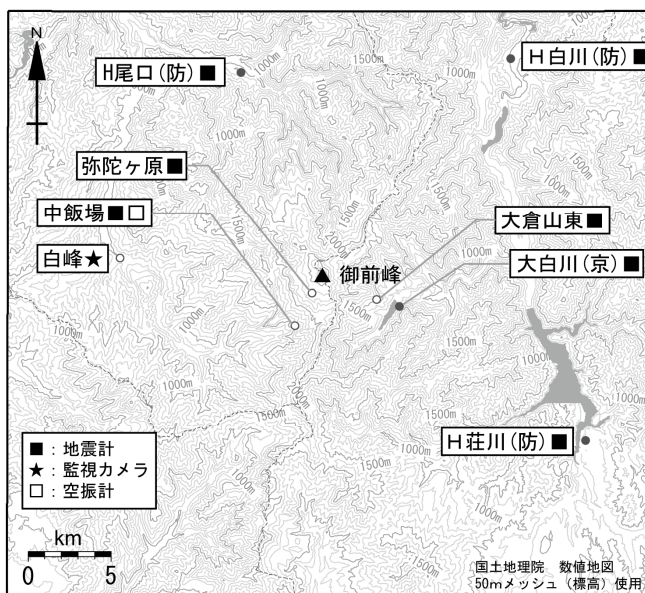
・噴気など表面現象の状況（図2、図5～6）

白峰監視カメラ（白山山頂の西約12km）による観測では、山頂部に噴気は認められません。

24日に北陸地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、白山周辺で噴気や地熱域は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図3～4）

白山付近の地震活動は低調に経過し、火山性微動は観測されていません。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（防）：防災科学技術研究所、（京）：京都大学防災研究所

図1 白山 観測点配置図



図2 白山 山頂部の状況
（5月4日 白峰監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和元年6月分）は令和元年7月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

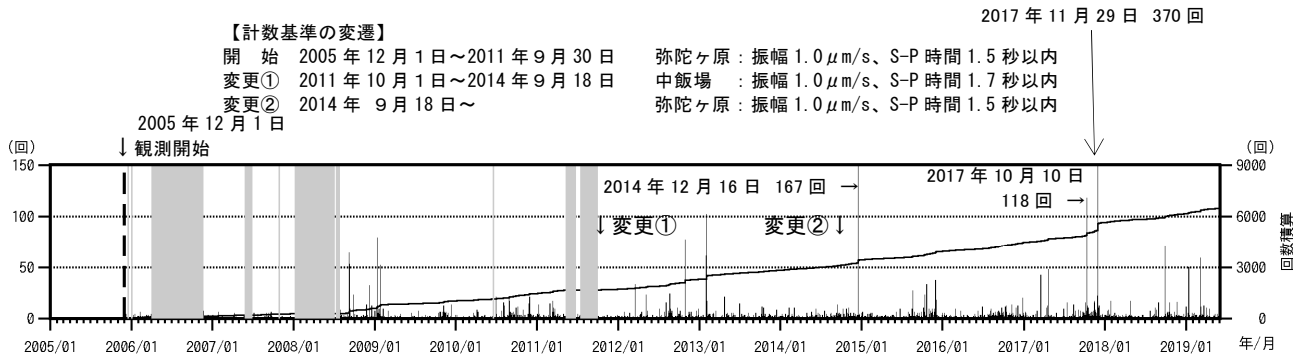


図3 白山 日別地震回数と積算回数（2005 年 12 月 1 日～2019 年 5 月 31 日）
図の灰色部分は機器障害による欠測期間

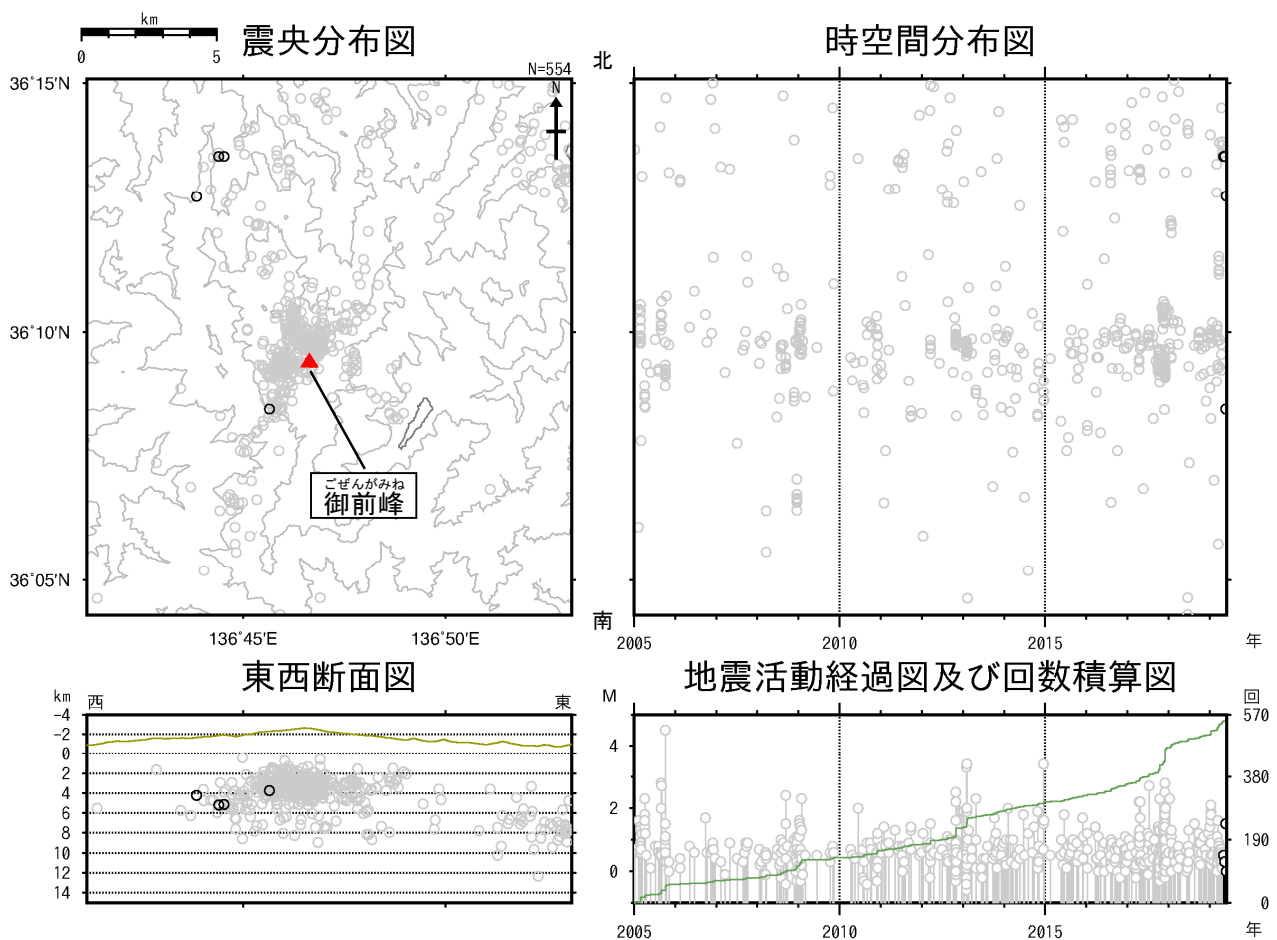


図4 白山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2005 年 1 月 1 日～2019 年 5 月 31 日）

○：2005 年 1 月 1 日～2019 年 4 月 30 日 ○：2019 年 5 月 1 日～5 月 31 日

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

M（マグニチュード）は地震の規模を表します。

図中の震源要素の一部は暫定値が含まれており、後日変更することがあります。



剣ヶ峰東方から見た状況（図6の①から撮影）



御前峰南方から見た状況（図6の②から撮影）



大汝峰北方から見た状況（図6の③から撮影）



御前峰西方から見た状況（図6の④から撮影）

図5 白山山頂付近の状況（2019年5月24日）

・24日に北陸地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、白山周辺で噴気や地熱域は認められませんでした。

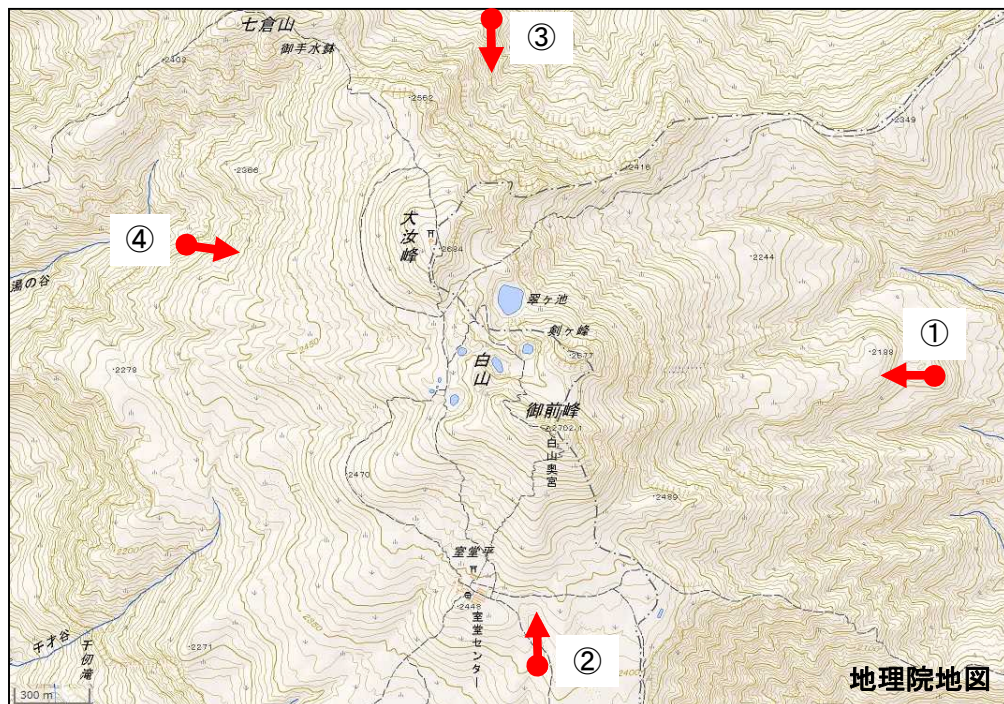


図6 白山周辺図

図中の番号は、図5の撮影方向に対応しています。